

ACTION

アクションポーズ DETAIL

各部ディテール



**ナックル・バスター**  
右胸の前面に据えられたセンサーとリンクしており、パイロットの操縦に関わらず有効な砲撃を加えることができる。また、密集隊形時には近接機と連携して連装砲として有機的な砲撃も可能。

**ビーム・ガン**  
元々はサーベルと兼用可能なデバイスとして開発されたものだが、コストダウンのためにサーベルの生成機能を省略しつつ、単機能化することで性能を維持している。

**脚部クロー**  
元々は背部ブロックがメインユニットで、脚部クローが土木作業用マニピュレーターであった。構造的に重力下での歩行は考えられておらず、敵機の捕獲や砲架としての運用が想定されていた。

**ビーム・サーベル**  
量産性を最優先開発されたデバイスだが、威力は標準レベルを維持している。

**変形システム**  
各ユニットは動力ケーブルによって連結されており、モジュールの移動や変形に対応している。

CUSTOMIZE IMAGE



\*写真は、発光ダイオードを組み込んだイメージ写真です。この商品に発光ダイオード及び電池、配線類は含まれておりません。

# AMX-003 GAZA C

AXIS MASS PRODUCTIVE TRANSFORMABLE MOBILE SUIT

© 創通・サンライズ

MODEL NUMBER : AMX-003  
TOTAL HEIGHT : 22.5m  
WEIGHT : 40.8t  
TOTAL WEIGHT : 72.5t  
GENERATOR OUT PUT : 1720kw  
MATERIAL : GUNDALIUM ALLOY  
ARMAMENTS : KNACKLE BUSTER  
BEAM GUN  
BEAM SABER  
(LEG CLAW)



MOBILE ARMOR

モビルアーマー形態 REAR VIEW

リアビュー



**AMX-003 ガザC (ハマーン・カーン専用機)**  
"ガザC"はアクシズが開発した可変MSである。一年戦争の終結に伴い、火星と木星間の小惑星帯アステロイドベルトの宙域まで逃げ延びたジオ公国軍の残党は、採鉱および木星航路の中継基地であったアクシズを潜伏拠点とするため、居住設備を拡充する必要があった。その作業用の機体としてガザA、ガザBが開発され、小型のコロニーに匹敵する規模の球形居住施設"モウサ"の建設に投入された。当初の指導者であるマハラジャ・カーンは、アクシズでの永住も視野に入れていたが、マハラジャの死後、その方針は転換され、地球圏への帰還が決定した。それに前後して、作業用のガザシリーズを生産する設備を流用してガザCが開発、生産されることとなった。本来が作業用の機体である上、MAとしても運用できるよう可変機構を採り入れたせいもあって運動性や機動性は決して優秀とは言えず、また、当時のアクシズには組織的にパイロットを養成する設備も機関も確立されておらず、パイロットの練度不足も問題であった。それらを補うべく、生産性が最優先され、砲撃戦を中心とする集団戦術が想定された。実際には、ナックル・バスターの搭載とジェネレーター強化が計られ、各ユニットは動力ケーブルによってリンクされている。アクシズが地球圏に帰還した時点で、本来の専用機であるキュベレイはすでに完成していたが、初遭で手の内をすべて露すほどハマーンは迂闊ではなく、まずは量産機の生産能力を誇示しつつ、余計な脅威も与えずに済ませるという遠謀深慮があったのだろう。

COLOR GUIDE

\*よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。  
\*塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。  
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー等をお使いください。  
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

●本体等： ホワイト(90%) +パープル(10%) +ピンク(少量)	●シールド等： 蛍光ピンク(45%) +パープル(25%) +クリアレッド(20%) +クリアブルー(10%)	●関節等： ニュートラルグレー(60%) +ミディアムブルー(25%) +ホワイト(10%) +レッド(5%)	●動力パイプ等： イエロー(65%) +ホワイト(30%) +ブラウン(5%) +ブラック(少量)	●ナックル・バスターの一部： イエロー(60%) +ホワイト(30%) +オレンジ(10%)	●胸部インテーク等： ブラック(100%)	●バーニア内部等： レッド(95%) +ブラック(5%)
--	---	---	---	---	--------------------------	------------------------------------

1/144 SCALE  
**HG**  
UNIVERSAL CENTURY

BANDAI 2006 MADE IN JAPAN

●写真の完成品は、塗装してあります。



0141907



**10**

PC-E B17  
B25 B24  
B23 B22  
PC-N  
PCH! (向きに注意)  
B16 C15 A18 C17

**11**

B17 PC-E  
B18 B19  
PC-N  
B20 B21  
PCH! (向きに注意)  
B16 C15 A17 C16 C29

**12**

A8 A31  
A23  
PC-N

**19**

C33  
C37 C36  
PCM  
C31 C38  
PC-G C32

**20**

B32 B30  
B31 B29  
B34  
B33  
シール (Seal)

**21**

20 で作った腰部  
16 で作った右脚  
18 で作った左脚  
B33 C35

**13**

9 で作ったボディ  
12 で作ったシールド  
10 で作った右腕  
11 で作った左腕  
高側に貼るシール (Seal to be pasted on the high side)

**14**

PC-C C6  
A10 (A15)  
C13 C11 (C12)  
A13 C2 (C3)  
x2 (2箇所作る)

**22**

13 21

**23**

SB61 A12  
A18 C28 C30  
両脚取り付ける (Attach both legs)  
選んで取り付ける (Select and attach)



**15**

C10 PC1  
B13 PC-E  
C14  
B14  
B15

**16**

B7 B8  
B11 B12  
B15 B14  
PC-101 PCA  
PC-J  
※足首は指で押さえながらはめ込みます。(Push the ankle with your finger while fitting it in.)

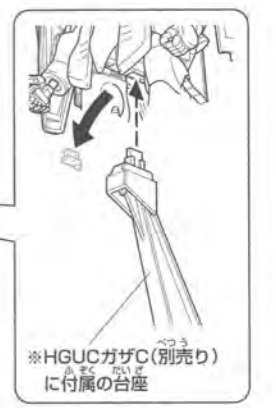
**17**

C10 PC1  
B3 PC-E  
C14  
B4 B15

**18**

B5 B6  
B1 B2  
PC-101 PCA  
PC-J  
D2 D3  
※足首は指で押さえながらはめ込みます。(Push the ankle with your finger while fitting it in.)

HGUCガゼC (別売り) の台座を使用して2機並べてディスプレイできます。



**1** **A19**  
(両腕取り付ける)  
※手首は、外しておきます。

**2** **3** 動力パイプを外さすに  
ナックル・バスターを外します。  
※動力パイプは  
図のように  
配置して  
ください。  
※両肩を奥までしっかり  
押し込みます。

90° (90°回す)  
1 肩を少し開いて  
ロックを外します。  
2 肩を図の位置に  
回します。

**3** **4** (両脚動かす) (180°回す)  
※肩を少し斜めに  
開きます。  
※シールドを  
図の様に動かします。

**5** **3** **2**  
※砲台形態を再現。

**6** **3** **2** **1**  
※前腕とシールドを  
図の位置にします。  
※モモから下の脚を  
図の位置にします。

(両脚動かす) (90°回す)  
90°  
180° (180°回す)

**7** **1** (両脚動かす)

※HGUCガザCに付属の台座 (別売り) でディスプレイ  
が楽しめます。

※HGUCガブスレイ (別売り) または、  
HGUCアッシュマー (別売り) に付属  
の台座にも取り付けられます。

**AMX-003 ガザC (ハマーン・カーン専用機)**  
ガザC (ハマーン・カーン専用機) は、劇場版「機動戦士ガンダムII-恋人たち」に登場する可変MSである。U.C.0087年10月、最大規模のジオン公国残党アクシズが地球圏に帰還した。その真意は計りかねるもの、共闘できれば劣勢を覆すことができる。アクシズとの接触を命じられたアーガンは、同じくアクシズとの接触を目標とするシロッコのドゴス・ギアのMS部隊との戦いを余儀なくされていた。そこに割って入るようアクシズから無数のガザCが現れ、ドゴス・ギアのMS部隊を排除するとアーガンを取り囲む。と、ただ一機だけ白い機体がアーガンに接触してきた。アクシズはアーガンとの接触を望んでいたように見えた。「そしてこれがリック・ディアスか」「そ、そうだ。アポリー・ベイが探知している」「機体がよく保ったな、ガンダム」「ゼータ・ガンダムと云います」機体とパイロットの名を聞いたハマーンは、カムイユが正規兵ではないことも見抜いていた。そして機体をクワトロの百式に相対させると、「それが百式か」「そうだ」「ようやく迎えに来ることができた、同道して頂こう……」そしてつづやくように、その名を呼んだ。「シャア……」それを誰か聞いたにせよ、込められた真の想いを知ることはできなかっただろう。白いガザCの先頭に従い、アーガンはアクシズへと向かう……。

CG Work by YUJI KONNO (Jam)

## ハマーン専用機に見る “ジオンのエースカラー”

地球圏へ帰還を果たしたアクシズは、エーゴとティターンズ双方に対し、その生産能力を誇示するかのごとく大量のガザCを出撃させた。集団戦術でドゴス・ギアのMS部隊を排除したガザCの群はアーガンを取り囲む。その中から、一機だけ白く彩られた機体が進み出て、アーガンのMS隊をひと通り検分すると、アーガンをアクシズへと先導する。その白いガザCには、アクシズの指導者ハマーン・カーンが産乗していた。ジオン公国の残党であるアクシズは、一年戦争(ジオン独立戦争)後も「ジオン公国」であり続けた。彼らの大義は依然として失われておらず、その主義や思想はもとより、ドグマも維持継承され続けていたのだ。一年戦争において公国軍は、多くのエースパイロットを輩出したが、戦争勃発の当初より、主力兵器であるMSザクにはエースごとに特定のパーソナルカラーがあつた。英雄たちの戦果は大いに喧伝された。それは彼らの技量を賞賛するとともに、自国の科学技術の先進性を宣揚するものでもあり、ジオン公国の威威を存分に発揮した。「赤い隼」「黒い三連星」「青い巨象」「ソロモンの悪夢」「真紅の稲妻」などのふたつ名は、敵味方を問わず広く巷間に知れ渡り、後々まで語り草となっている。すなわち、工業製品として優れた機体の生産能力を持つことと、それを使いこなす“エース”の存在は、かつてはジオンの、そして現在はアクシズに暮らす人々の心の支えであり、ジオンの理想を紐帯とする絆の象徴として機能していたのだ。依然としてアクシズは典型的な軍事政体下であり、政治的指導者は軍事的側面においても主導的な立場にあらねばならなかった。それを象徴するのが、白と紫を基調とする塗装が施された特別仕様ハマーン専用ガザCなのである。キュベレイにも見られるように、おそらくこの配色はハマーンのパーソナルカラーなのだろう。あるいは、ドスル専用ザクなどのようにセレモニ用途でも使われていた可能性も否定できない。集団の中において特異な存在は、その集団に君臨することを意味し、あるいは自ら君臨であることを告白している。また、トップ自らが先陣を切ることで範を示し、集団の統括と掌握を同時に達成する必要があったのだから。まさに“白いガザC”は、グリプス戦役のターニングポイントにおいて、そのように機能したと言えるだろう。

MS-003 GAZE C (HGUC)  
MS-003 GAZE C (HGUC)  
MS-003 GAZE C (HGUC)

コンセプトデザイン：カトキハジメ